



写真商社を立ち上げて15年、現在会長職の  
小林章二さん(70)は写専の11期卒業生。  
入社7年目の武田基嗣さん(43)と昨年入社  
の植田雄介さん(23)大先輩の生き方を手本に二人の写専後輩たちが頑張っています。  
楽しそうな職場にお邪魔しました。

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.61

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY



写真家を支援するのが僕の仕事です。  
写真が大好きですから。

大阪・中津にある(株)one to oneを訪ねました。笑顔で迎えてくれた小林さんは学生時代を懐かしく振り返って「担任が古賀先生だったんですよ。厳しい先生でしたが、いい先生でしたね。なんでも相談できましたし、就職もお世話いただきました。当時のクラスは営業写真学科で70名もいたんですよ。学生たちの実家が営業写真館で、その跡取りばかりだったんですよ。僕は後を継ぐ店がなかった分、非常に自由でしたね。将来のカメラマンへの夢が限りなく広がっていた頃です。そんなカッコいい夢を現実的に営業写真の技術をさらに向上させてくれたのも古賀先生でした。クラス仲間の職業人としての資格意識は高かったですよ」50年以上も前のシーンが小林さんの瞳に浮かんでいるのだろう。穏やかな顔になった。先輩にも後輩にも助けられましてね、学校が阿倍野にあつて少し坂を下ると楽しい飲み屋街があつて、仲間がその辺りに住んでいてよく泊まっていたですね。僕はこう見えてヤンチャな性格でして(笑)大暴れもしましたけれど、将来のこと、写真のこと、光のこだわりというんな事

をみんなでもよく話し合いましたね。写専時代は友達の輪が広がりましたね。これも今の財産になっています」愛すべきヤンチャな小僧の表情を見ることができた。小林会長の隣で鎮く武田さんは二児のパパです。休日はどう過ごしていますか? 「子守です」(笑)  
植田さんはよく学校に顔を出してくれます。「僕は学校が好きですから」(笑) 笑顔の絶えない職場である。これも会長のお人柄だろう。「社員も含めてですが、僕はいいお客様に支えられてきました。いつも講演で話していることですが、僕は写真家と良いパートナーでありたい。写真館は生き残る職業でなければいけない。そのためには残す努力をしなければならぬ。そのためには機材だけでなく情報の提供も必要なんです。時代は激しく流れています。お互いに本音でコミュニケーションを取り合うことが大切になってきますね」まだまだ前に進むとするパワーは重ねた歳を感じさせない。気持ちは若いお兄ちゃんである。勇気をいただきました。ありがとうございました。